

1.5.5 ライフサイクルコストを考慮した経済性比較

現状における工法選定には、一般に経済性の比較を優先するケースが多く、しかも単に材料費や掘削費、仮設費等、当面の経費のみを考慮する場合がほとんどである。

しかし構造物のメンテナンス費増大が懸念される現状において、長期耐久性をも考慮する必要性が感じられる。

具体的には以下のようなケースが考えられる。

工法	当面の工事費	構造物の寿命	1年当たりの経費	判定
A	1億円	40年	250万円	長期的には、B工法に劣る
B	1.2億円	50年	240万円	長期的にみれば、最も安価
C	1.5億円	60年	250万円	当面の工事費A工法の1.5倍と割高であるが、1年あたりでは変わらない。

構造物の寿命については明確にできない点があるが、上記例からは、わずかな経費差であれば、より品質の高いアンカーを選定すべきと考えられる。

アンカー工が本格的に施工されてから30年程度が経過しており、そろそろこうした点に配慮すべき時期にきているものと思われる。